

# 輝いている農業な女たち

佐藤 範子 さん

今、農業は就業率の低下、輸入農作物の台頭そして原油高騰によるコスト増など、グローバルな問題をも抱え、課題は山積みです。しかし、その現状のなかで、農業を職業として選択する女性や積極的に農業経営に参画する女性、既存の農業に付加価値をつけ収益を上げる女性、そして市民農園などで土に親しむ女性が増えてきました。今回は、そんな「今どき農業な女たち」を追いかけます。

「職業として、選んでもらえる農業を」。こう考えた範子さんは、平成10年7月、産直の店をオープンさせました。子育てに一段落した時期でした。現在、夫婦と息子の三人で農業に従事していますが、範子さんには産直の店の担当という仕事に加わります。消費者に胸を張って勧めることのできる農産物の販売、減農薬特別栽培米の生産販売、農薬不使用栽培のお米や野菜の委託販売、日々の仕事には、このようないくつものこだわりがあります。それは、自宅裏の畑で栽培した農薬不使用の野菜を利用して作るお弁当という形でも現れます。季節限定の彼岸団子、お供え餅、のし餅なども手作りして、販売しています。「今どきのスローフードな感じ」



と範子さんは表現しました。消費者に喜んでもらえる手作りでこだわることには、生産・加工・販売のすべてにおいて大変なこともあるそうです。「でも、大変な分、やりがいがある仕事」とほほえむ範子さんは、「農作業は、明日のための作業」という義父の教えを紹介してくれました。「今、私たちがしている農業は次世代の土台となるもの。次世代の土台となる農業経営をと思うと、また農業は楽しめますよ」ということでした。6人のスタッフで知恵を絞って作るお弁当は季節感と味へのこだわりが目撃です。「昨日より今日、身の丈だけ成長していきたい」農業大好き範子さん。今どき農業な女性、ここにも一人見つけました。

# 今どき農業な女たち

# アグリカルチャーのすすめ

ラディッシュ、トマト、ナス、ピーマン、ズッキーニ、枝豆、トウモロコシ、ジャガイモなど。春から秋にかけて我が家の食卓にのぼる野菜の数々は、無農薬、有機肥料で安全・安心、しかもおいしい！

市民農園にはいろいろな畑があり、これを見て歩くのも楽しみの一つ。定番はいろいろな野菜がぎっしり植えられている畑だが、スイカだけ、あるいはジャガイモだけ、はたまたお花とハーブだけという個性的な畑もある。栽培方法も、雑草も取らない自然農法や、

暮らしから始まる。アパートの庭が広がったので大家さんの許可を得て野菜を初めて植えてみた。秋には両家の親をゲストに収穫祭をやるほど実ったのだ。それから、ハマリました。土を耕し、苗や種を植え、芽が出た、葉が出てきたとあっては喜び、夏の暑さの中で草取りもなんのその、手のかけた分だけ収穫の喜びもひとしおというもの。自分で育てると、親指の先ほどのジャガイモも捨てられなくなる。

## ちょっと農業の始め

## 汗した分だけ口福が訪れる



液肥を使うのがあったり、自然に任せたり、自然栽培の方法について質問したり、実の出来具合を誉めあったり。畑を通じて、人との付き合いのあざましさを実感できるのも、市民農園ならではだ。

週末に畑に通って野菜をつくる「ちよこつと農業」、青森市の食料自給率アップに貢献しているのかも。

アグリカルチャーとは「農業」。アグリはラテン語で畑、カルチャーは耕す。文化（カルチャー）はこの耕すという言葉から派生したもの。青森市は豊かな自然環境と都市近郊型農業を有し、食料自給率が全国は40%に対して青森市は63%と比較的高い。農産物は、米、りんごが有名。カシスは30年前から栽培が始まり、農家女性を中心に「あおもりカシスの会」が設立され、生産・加工等努力を重ねた結果、現在、日本一の生産地となっています。

**冬期間**  
冬は大好きな農作業がないので、漬物などの加工品づくり。これもお店の人気商品。また、情報収集ができる大切な時間。安全でおいしいお弁当づくりのため県外へ調査に行くこともあります。年度末に向けて税金の申告準備も。

**午後7時 夕食**  
家族揃っての夕食。きょうはお弁当の新メニューを家族みんなで試食。野菜本来の旨みを活かした減塩料理は好評。  
**午後10時 就寝**

**午後3時 畑の見回り。帳簿の確認**  
再度、畑の見回り。農薬不使用の野菜栽培なので、人の目と手は倍必要。終了後、つかの間の休息。お弁当の新しいメニューを研究。本日の売り上げを確認。

**朝9時 開店**  
お弁当の販売は通年。開店と同時にお弁当の電話注文の受付開始。スタッフは直販店へ商品搬入後、予約分を市内配達。店が一段落した合間に会員制で販売している玄米の出荷状況、顧客名簿をチェック。

**朝6時半 お店の厨房入り**  
商品のお弁当作り開始。1日10キロのお米を炊き、スタッフと100食分調理。生産者が採れたての野菜を運んでくる。その場で値段をつけたり、商品棚に並べたり大忙し。

**朝5時起床 自宅の畑を見回り**  
作物の出来具合を確認。きょうは何を収穫しようかな。このひとときにお弁当のアイデアがよく浮かんでくる。自宅に戻り、家族の朝食の用意。米と野菜は自慢の自家製。

**農業起業家 農業好子さんのある一日**  
家族：好子・夫・息子・義父  
田んぼ・畑所有  
お弁当屋経営  
家族経営協定締結  
メリハリがあるから農業が好き！



## アグリカルチャーへの道お助けサイト

農業を職業としたい、自給自足の生活を目指したい、手軽な市民農園を利用したいなどアグリカルチャーへの道を歩みだそうとするあなたへ。

■農林水産省「男女共同参画のページ」  
農山漁村の女性のチャレンジ支援を応援する総合的サイトがあります。

<http://www.maff.go.jp/danjo/index.html>

■“A”Life Park～青森県で農業をはじめませんか～

青森県農林水産部構造政策課

新規就農者向けに、就農までのステップなどが分かりやすく解説されています。

<http://www.applenet.jp/~kouzou/a-life/shinkiukeire.html>

■青森市農林業情報

青森市の農作物をはじめ農業資金、施策、データなどが掲載されています。

<http://www.city.aomori.aomori.jp/nogyo/sajb01.html>

■市民農園の問合せ

市民農園の場所、空き状況の問合せは

青森市農林水産部農業政策課 Tel 0172-62-1144

## 女性農業起業家が倍増

女性農業起業家の条件は、経営方針の決定や事業実施において、女性が主体となった経済活動を行っていること。また地域の農産物等を使い、女性の収入の獲得につながっていることなどが挙げられます。

地域の農産物等を使った加工品やレストラン、直販店の経営で収入を得る女性たちが増加しています。農林水産省の調査によると平成9年の4040件から18年の9344件と2倍強の伸びを示しています。最近では古民家や自宅を改装したレストランや直販店の経営が増加しています。また、農業起業家の強い味方はパソコン。全体の約25%がI Tを活用して、商品の紹介、販売や経営管理等を行い、17%の女性たちが取り入れたいと考えています。

## 女性認定農業者 青森市は8人

認定農業者とは、農業で頑張っていこうとする人が立てた計画（農業経営改善計画）を市町村が基本構想に照らして認定するものです。認定農業者になると、その計画達成に向けて様々な支援措置を受けることができます。

農業経営や農村地域での女性の役割はますます重要になっていきます。青森市の女性認定農業者には「ViC・ウーマン」所属の方が一人含まれています。平成15年、今まで家族経営では一経営体で一人と限定されていた認定農業者制度を改正し、共同経営者である女性農業者や農業後継者にも認定農業者への道が開かれました。**認定農業者でこんなメリットも**  
■低利資金の融資  
■税制上の特例  
■機械・施設等の整備に対する助成  
■農業者年金保険料の助成  
■経営規模の拡大支援

## 家族経営協定締結 青森市は19戸

家族経営協定とは、農業経営にたずさわる家族みんなが意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指すものです。経営方針や役割分担、労働時間、報酬など、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき、取り決めます。

農家で農業労働に携わる女性たちは、労働と家事の区別が難しいためワークライフバランスを崩しがちです。協定を結ぶことで、農業労働や家事・育児の役割分担や労働の報酬など家族にあったルールを決めることができます。**家族経営協定の締結でこんなメリットも**  
■認定農業者制度  
■実質的に協定等を締結していることを要件に夫婦等の認定農業者の共同申請ができます。  
■農業者年金  
協定等を締結し、一定の要件を満たすと経営に参画している配偶者、後継者の保険料に一定割合の国庫助成が行われます。その他にも、農業改良資金等の貸付、農地のあっせん、果実需給調整対策、夫婦連名表彰があります。

注：「ViC・ウーマン」は農林水産省の普及女性課における施策のもとに展開されている青森県が認定する農村漁村の女性リーダーの称号。農業経営から生活、社会に関することまで情報交換し、地域の活性化に向け活動している。